



# RGM-79 GM

E.F.S.F. MASS PRODUCTIVE MOBILE SUIT



1/100 scale MASTER GRADE RGM-79GM Ver.2.0



地球連邦軍  
量産型モビルスーツ  
RGM-79 ジム Ver.2.0  
1/100スケール マスターグレードモデル

## RGM-79 GM



地球連邦軍  
量産型モビルスーツ  
RGM-79 ジム Ver.2.0  
1/100スケール マスターグレードモデル



# 地球連邦軍MS開発経緯

## “V作戦”におけるMSの開発目的

V作戦は、U.C.0079年初頭の一週間戦争（同年1月3日～10日）からルウム戦役（同月15日～16日）に至る戦闘などで喪失した宇宙艦隊の再建を企図した“ピンソン計画”と同じ、U.C.0079年4月1日をもって発動した。

“V作戦”の内容は、MSの開発量産と、その運用母艦となる強襲揚陸艦の開発建造を同時に行い、その戦術システムを含む兵器体系の創出をも視野に入れた空前絶後の大プロジェクトである。その実施に当たっては、既存の“地球連邦軍”に製品を供給していた軍需産業のみならず、民間企業にも広く門戸が開放されていた。実際このプロジェクトは、前年発動した“RX計画”によって集積された膨大な案を取捨選択し、有用なコンセプトを複数採用しつつ、試作と量産の行程が同時に進行するという尋常ならざるものとなった。開戦以前にジオニック社が開発したMSそのものは、連邦軍の反応を探るため、ジオン公国自ら平和利用の作業機器として公開していた。デモ用の装甲に非武装で公開されたMS-05 ザクIの試験風景を見た連邦軍首脳は、巨大ではあるが、そのためレーダーなどによって遠距離からでも捕捉されやすく、固定武装も一切持たない欠陥兵器であり、軍事的脅威とはならないと判断した。しかし、一部の軍関係者は、公国軍による教導機動大隊の編成や

演習に遭遇した兵士の報告などを勘案し、民間企業も巻き込む形で“巨大人型兵器”の開発と対抗措置を含む基礎研究を発動させた。それがRX計画である。とはいえ、確たる財源もなかったため、軍需産業に対しては、既に執行されている兵器研究の予算枠の割譲や統廃合などを融通させた。また、民間企業にも広く浅く試案や試料を募った事で、各種のアイデアは兵器産業に特有の閉鎖性に影響されず、膨大な基礎資料が集まることとなったのである。そしてU.C.0079年1月3日、ジオン公国は地球連邦政府に対して宣戦を布告。ジオン独立戦争（一年戦争）が勃発した。その緒戦において、前線に立つ連邦軍兵士たちは“初めて”MSの驚異的な威力を目の当たりにしたのである。それから一ヶ月足らずで地球連邦は降伏寸前にまで追い込まれ、V計画が発動した4月の時点では、既に地上のおよそ1/3がジオン公国の地上部隊によって制圧されていた。連邦軍のMS開発は、その状況を覆すために敢行されたのである。

## 連邦軍量産MSと公国軍ザクとの開発・運用比較

ルウム戦役での捕縛から逃れ、奇跡の生還を果たし“ジオンに兵なし”として徹底抗戦を訴えたレビル將軍は、MSの実力とポテンシャルを目の当たりにし、MSこそが次世代の主力兵器であると確信していた。

連邦政府が戦争継続を決定した時点で、ザクの各種バリエーションはすでに地球環境への適応拡充を果していた。本来、ザクにはあらかじめある程度の汎用性を持たせていたのだが、地球の環境はMSにとって想像以上に過酷であり、結局は機体全体の改造や調整を必要とするバリエーションをその都度調達する必要があった。しかし連邦軍にはそのような時間的余裕は無く、また、既存の航空機や戦車両との置き換えや代替品としてMSを運用する際のノウハウの蓄積も必要であった。そのため連邦軍は、RXシリーズの開発において、既存の兵器の各要素を組み込みつつ、同時に検証するという手法を採用した。強力な火力を持つ大型砲や無限軌道（キャタピラ）などの要素がRXシリーズに組み込まれていたのはそのためである。数次にわたる地球降下作戦を展開した公国軍は、瞬く間に地上の1/3を制圧したものの、その時点で公国軍の補給線は延びが止まらず、連邦軍も攻勢には出ず、戦況は膠着状態に陥った。ルウム戦役を経て帰還したレビル將軍は、対MS戦を見据えた戦術の抜本的な改革が必要であると主張し、その人望と政治的手腕によってV作戦を主導する。MS運用の核となるのはMSの母艦である。連邦軍は、MSを“機動歩兵”と位置づけ、その輸送と展開に加え、後方支援を可能とする“強襲揚陸艦”の建造を決定する。これとMSを連携させることにより、より広汎な領域でMSは運用可能となる。ただし、そのような新造艦をから建造するような時間的猶予はない。そのため、既に起工されていた艦艇に改装を施すことが決定された。その活動領域は“万能型”のガンダムに能力を基準とし、大気圏の突入、脱出と大気圏内外での巡航能力、更に、強力な火力と対空防衛能力、MSの整備能力などが盛り込まれ、“ホワイトベース級強襲揚陸艦”が建造されることとなったのである。しかし、これら

の要素が全て必要となるのは特殊な状況であり、まずはMSの量産が最優先とされた。そして、いくつかの先行試作機や限定的生産と投入を経てRGM-79 ジムの本格的な量産が開始された。この機体は、RX-78 ガンダムの基本構造に基づいて再設計されたが、ガンダムのような“万能型”ではなく、投入環境に応じて“余分な装備をオミットする”というコンセプトで開発されていた。地上であれば、宇宙での装備は必要なく、それぞれの気候風土に対応した機能のみ組み込まればよいのである。その分だけ機体の軽量化やプロペラントの増量が可能になる。この構造は巧妙にシステム化され、基本的には“コア・ブロック”の換装のみで、各投入環境への対応が可能とされた。実際、この時期のほとんどのジムは、コア・ブロックの仕様以外の差異はほとんど無いとされている。さらに、宇宙と地上の往還が不要となった事で、数種の先行量産機が備っていた腰部のラジエーションユニットも基部ごとオミットされ、フラットな形状を獲得している。かくして連邦軍は、各領域での要求性能を維持したままで、MSの大幅な工期短縮とコストダウンを達成したのである。



MS-06F ZAKU II

## ジムとは

U.C.0079年8月。連邦軍は量産型MSの試作一号機をロールアウトさせていた。しかし、依然コストが高く生産性も劣悪であったため、リファレンス機のトライアルを続行し、改善のための試行錯誤を繰り返していた。

ジオン公国軍は、U.C.0079年9月にWB（ホワイトベース）を発見した時点で既に“V作戦”の概要を察知していた。連邦軍首脳は、その時点でMSの量産を含む反攻計画の全容を秘匿すべく、敢てWBを孤立無援の状態に置いていたとされている。また、WBが寄港したルナツーの工廠では、既にジムの量産が行われていたとする説もある。その後も、トリプルAの極秘事項であるはずのWBとガンダムは放置され続けた。それは、公国軍におけるWB部隊の評価が非常に高い事を知った連邦軍首脳が、彼らを囮として最前線まで断じていたからであった。レビル將軍はそれを逆手に取り、ガンダムを含むWB部隊全体をMS開発のためのテストベッドとした。実際、WB部隊のRXシリーズMSは、マテルダ中尉率いる補給隊との接触以降、ほぼ週交わりで仕様が変わると言われるほど、その細部の形状やスペックに異同があったとされている。これは、ジムの量産が本格化して以降も継続され、ソロモン攻略戦に続くMC（マグネット・コーティング）処理の後も、ガンダムの実戦データは回収され続けていた。一連の措置は、「ジオンに比べ10年は後れている」とされるMSの開発・運用ノウハウを収集するためでもあった。実際、MSの実効性に疑いを持つ連邦軍首脳は依然として少なくはなく、前線からはMSの配備が切望されているにも関わらず、連邦軍の上層部は本格的な量産の認可に及び腰であったとも言われている。それでも、地上の状況は切迫していたため、本格量産以前の時点で、RXシリーズの余剰パーツなどを流用した陸戦用MSが少量量産されたほか、MSの運用に対応したビッグ・トレイ級の地上戦艦も複数配備されている。無論、これらの運用データもジムの“正規”量産型に反映されていた。例えば、湿地帯や標高が高い領域での稼働データはWB部隊は収集できておらず、沼沢地や山岳地帯のデータはコマ大隊経由でジャブローにもたらされていた。ちなみに、QC（クオリティコントロール）の一端で“ガンダム”に採用されなかった余剰パーツなどは、そのままでは無駄なコストとなるが、機体として軍に納品されれば売り上げとして計上できる。つまり、先行量産機などが生産されたのは、膨大な経費の償却のため

の措置であったとする説もあるのである。とはいえ、リファレンス機の実働データのみで量産機の実地訓練や戦術論が確立される訳もなく、生産ラインを稼働させるためには技術者の実地訓練や試行錯誤もまた不可欠であったことは言うまでもない。いわゆる“陸戦型”の生産はむしろ、トップダウンとボトムアップ双方からのノウハウを意図的に集積させた側面もあるのだ。かくして“連邦軍の次世代主力兵器”は、General Mobile-suit（一般的なモビルスーツ）、あるいは、Gundam Model（ガンダム型）としての仕様を確定させ、宇宙世紀に産声をあげたのである。ジャブローにおけるGM=ジムの第一次生産機は、地上用の機体が42機生産され、初期の部隊編成に使用された。続いて細部に設計変更が施された後、同年12月以降に寄港されたキャリフォルニアベースをはじめとする6カ所を生産拠点として、いわゆる第二次生産機が総数で288機生産されたこととなる。ただし、この生産数に関しては、先行量産機やカスタムタイプなどが除外されているという説もある。加えて、公国軍による撃墜数とこの組（そご）、ジャブロー襲撃の際のデータ喪失や艦艇単位での部隊の失踪、あるいは遭難などが多数あった事も一年戦争終結後の調査で判明している。また、記録外の生産拠点もあったとされ、特に一年戦争終結時点でのジム系の“総生産数”は厳密には不明であり、実際にはもっと多かった可能性の方が高いとされている。

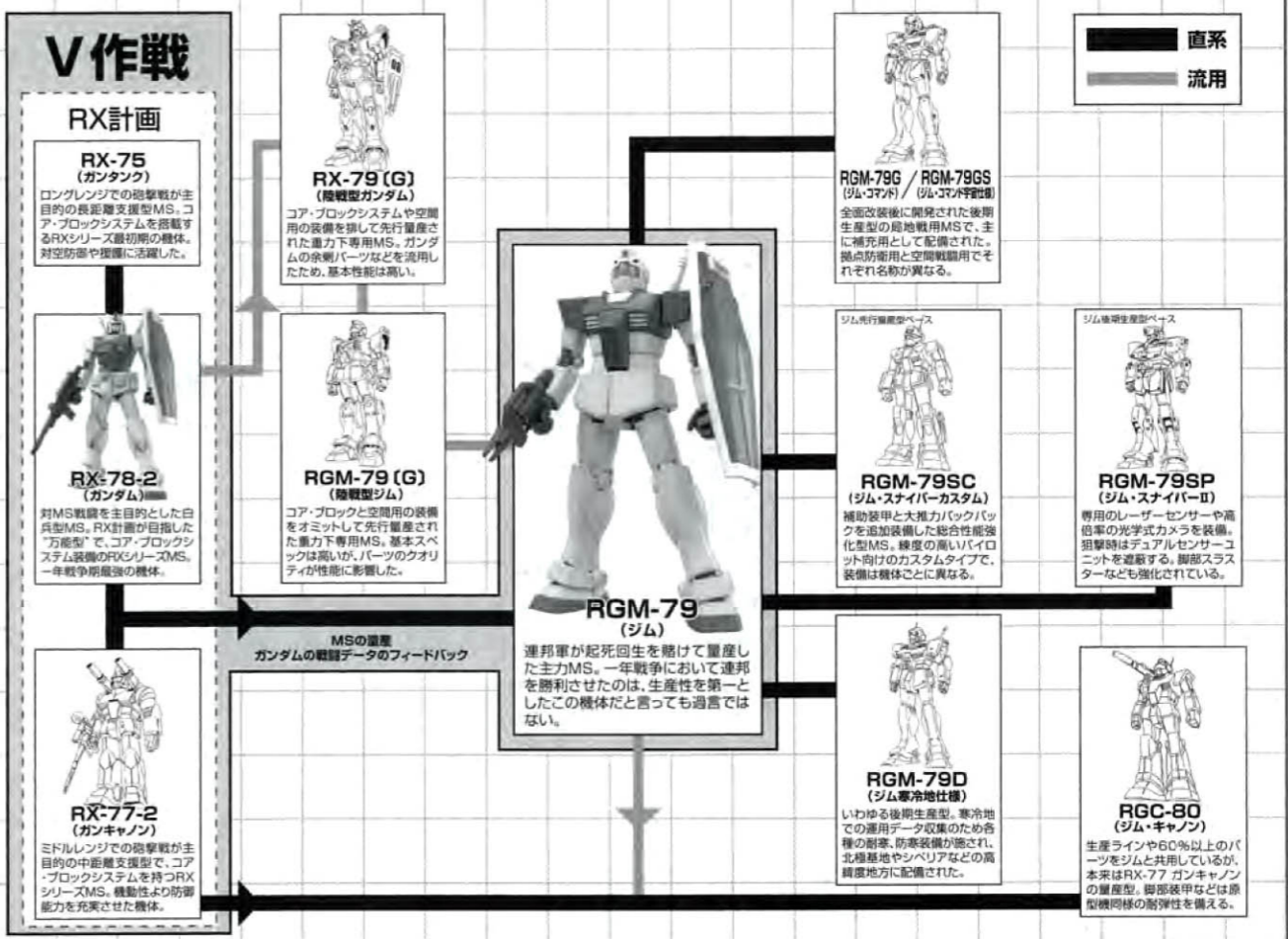


MS-06F ZAKU II

## ジム系列開発系譜

Development genealogy

先行量産などを行った工廠は、極端な設計変更や規格外でない限り、独自設計機の生産なども認可されていた。本格量産の開始から3ヶ月弱の期間内で、ジム系のバリエーション機が複数存在するのはそのためでもある。



## ジムスペックと武装

Spec and armaments

MSの武装について、連邦軍はほとんどノウハウを持っていなかった。しかし、直獲したザクを研究する事で、必要な装甲強度や火器の威力を算出するのはそれほど難しい事ではなかった。特に連邦軍は、ルナ・チタニウム合金の製錬技術とビーム兵器に使われるエネルギーCAPシステムに一日の長があり、少なくとも“ザクと対峙して後れをとる事のない機体”に関しては早々に目処が立ったと言われている。実際には、それらの技術資料には研究中のものも含まれており、一機のMSとしてまとめあげられるまでには多くの困難が伴ったと言われている。また、RX計画時点での理想値は開戦前の段階で、すでに絶望視されていたとも言われ、文字通り、理想と現実のギャップに茫然とする技術士官も少なくなかったようだ。それでも、V作戦発動までには現実的な数値が設定されており、ハイエンドを模索しつつ、それをリファレンスとしてローエンドを底上げすることとなった。まず、学習型コンピューターに必要なセンサー類は非常にコストが高く、量産機にそのまま採用する事はできなかった。そのため、メインカメラの口径を下げて光学系のコストを抑えつつ、光学補償ソフトで同等の解像度を確保している。デュアルセンサーは、ガンダムの頭部センサー群を簡略化してひとつのユニットとすることで生産効率を上げている。生産拠点や時期によって、センサーアレイカバーには円柱状のものや球状のものがある。固定武装は頭部60mmバルカンが2門とビーム・サーベル1本がデフォルトで、近接や格闘戦に対応する。ガンダムに供給

されたジャベリンタイプのユニットは、一般的にはほとんど供給されなかったようだ。必要があれば、ホルダーユニットを追加して、ランドセル内部のターミナルをオンラインにすることで、2本装備する事も可能である。ビーム・ライフルはガンダムと同様に運用できるが、フルスペックのものは歩留まりが悪かったため適正に配備される事は無く、収束率と出力をセーブしたビーム・スプレーガンが標準装備とされた。逆にそのせいで、むしろ連射性は向上しており、RB-79 ボールとのハイ&ローミックス構想に基づく集団戦では有利に機能している。実体弾を射出するハイパー・バズカの威力はガンダムのものと同等なので、艦隊戦や拠点攻略などで多用された。



Beam Rifle  
Beam Spray Gun

**△ 注意**

**必ずお読みください**

- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

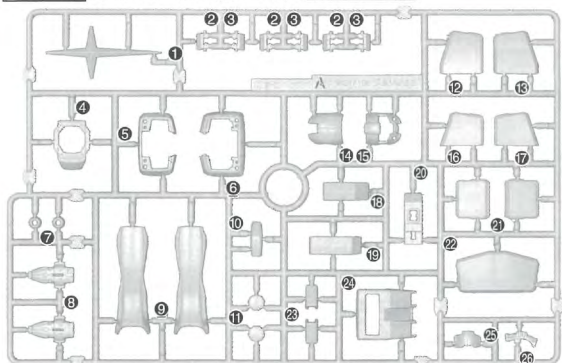
**〈組み立てる時の注意〉**

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

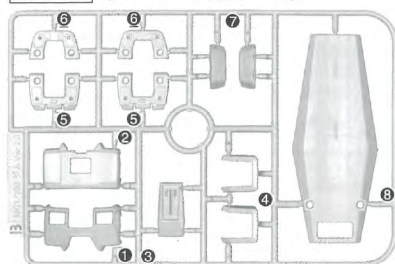
**パーツリスト**

(×印は使用しないパーツです。)

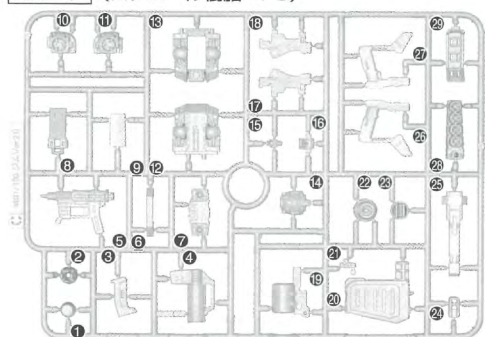
**Aパーツ** (スチロール樹脂: PS) **アンダーゲート有り**



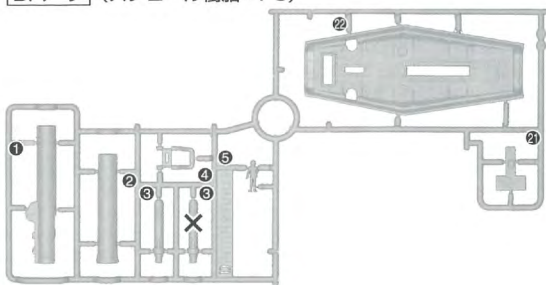
**Bパーツ** (スチロール樹脂: PS)



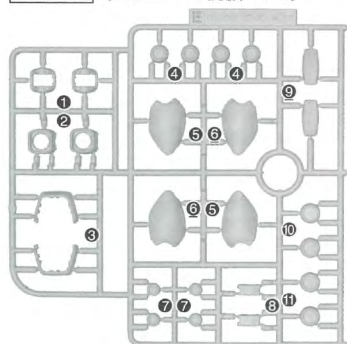
**Cパーツ** (スチロール樹脂: PS)



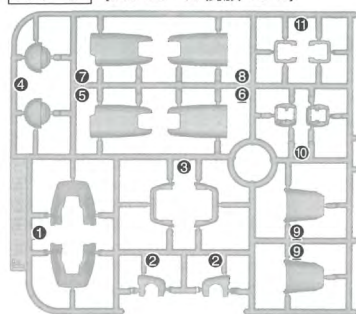
**Dパーツ** (スチロール樹脂: PS)



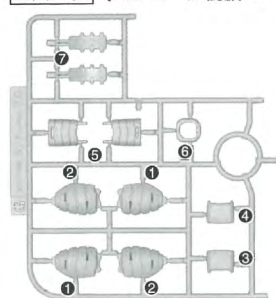
**Eパーツ** (スチロール樹脂: PS)



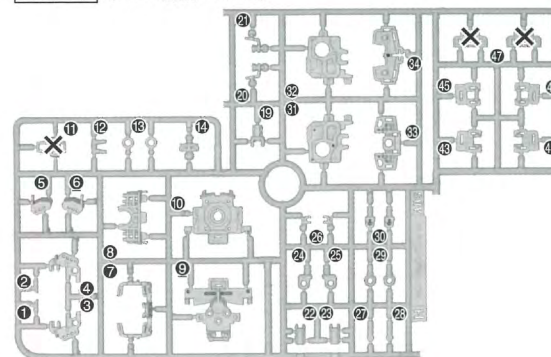
**Fパーツ** (スチロール樹脂: PS)



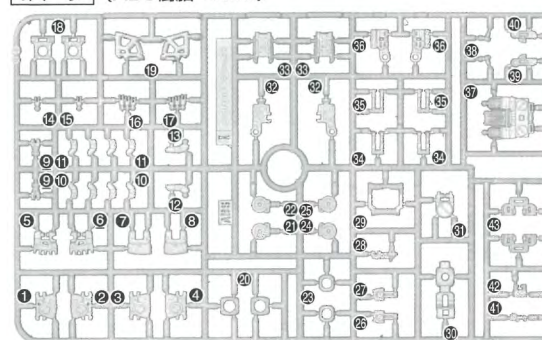
**Gパーツ** (スチロール樹脂: PS)



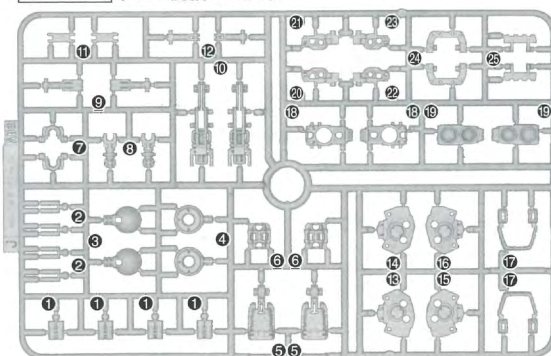
**Hパーツ** (ABS樹脂: ABS)



**Iパーツ** (ABS樹脂: ABS)



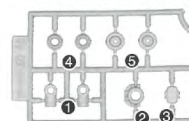
**Jパーツ** (ABS樹脂: ABS)



**SB1パーツ** (スチロール樹脂: PS)



**PC-202パーツ**  
(ポリエチレン: PE)

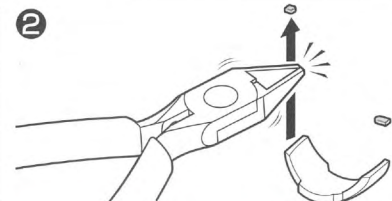
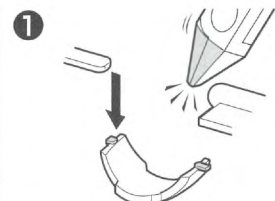
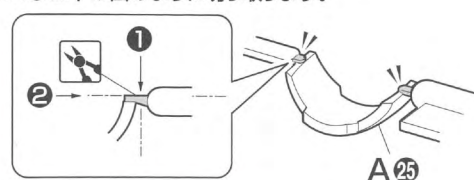


- カラーシール.....1枚
- マーキングシール.....1枚
- ガンダムデカール.....1枚

**アンダーゲートの切り方**

▶アンダーゲートマークの付いた部品は、下の図のようにキレイに切り取ります。

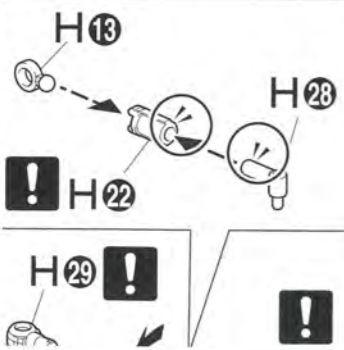
※A25は下の図のように切り取ります。



# 組み立て前の基本説明

## 部品の向きに注意してください

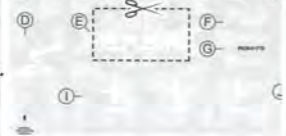
※組み立て図中にVのついている部品は、形状や向きに注意して組み立ててください。



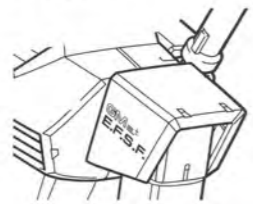
## ガンダムデカールの貼りかた

①ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。

0 1 2 3 4 5 6 7

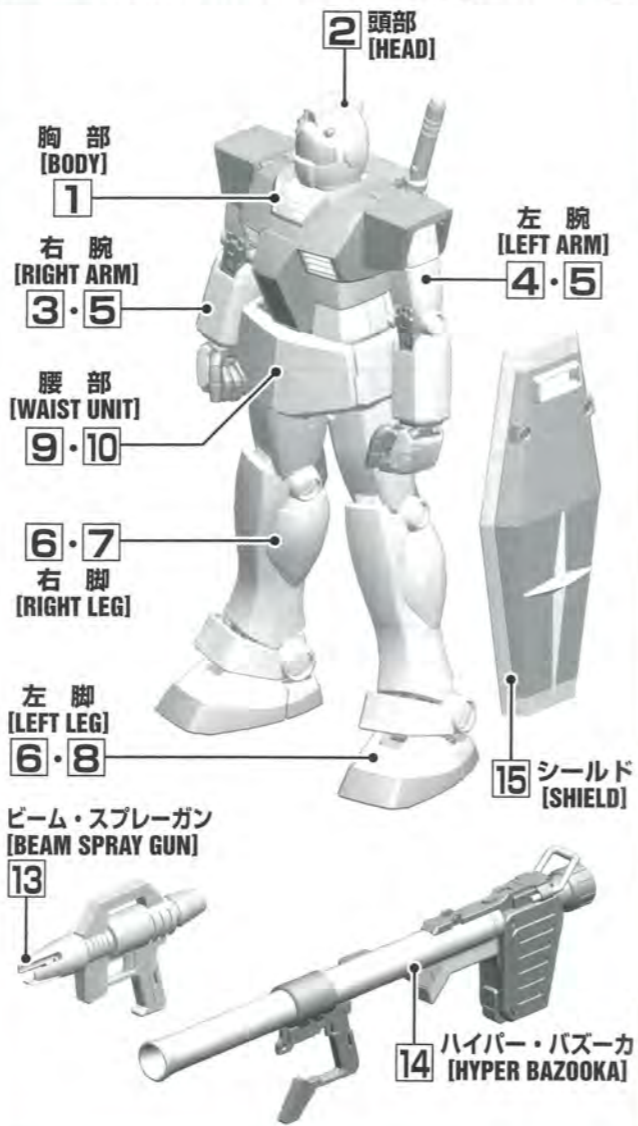


②保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、すれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。



③シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。

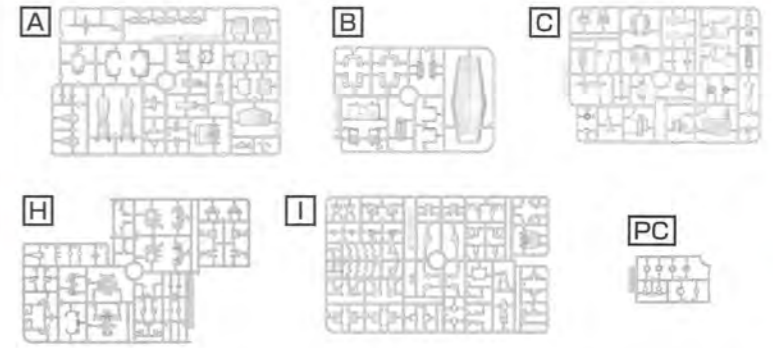
## 説明書をよく読んで完成させましょう



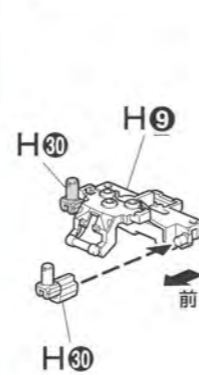
## 1 BODY UNIT



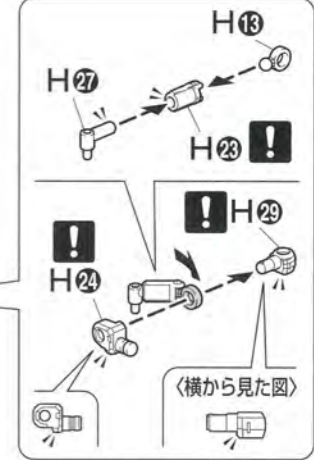
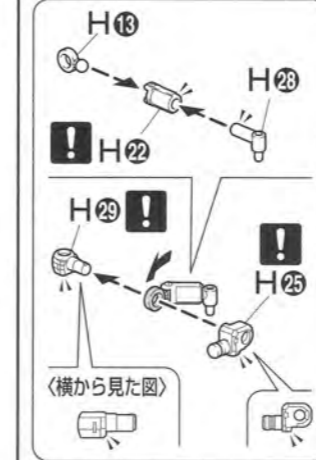
・組立1で使用するパーツ



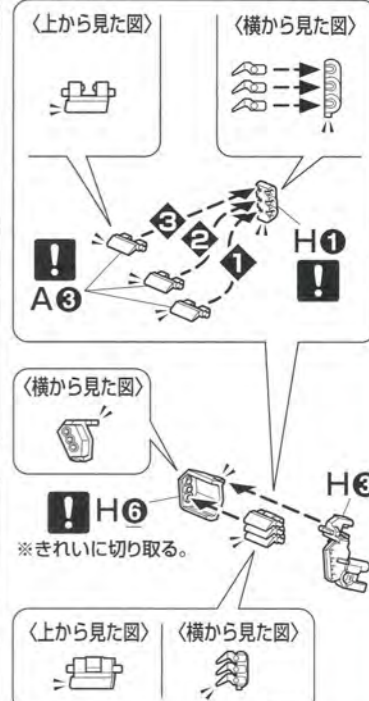
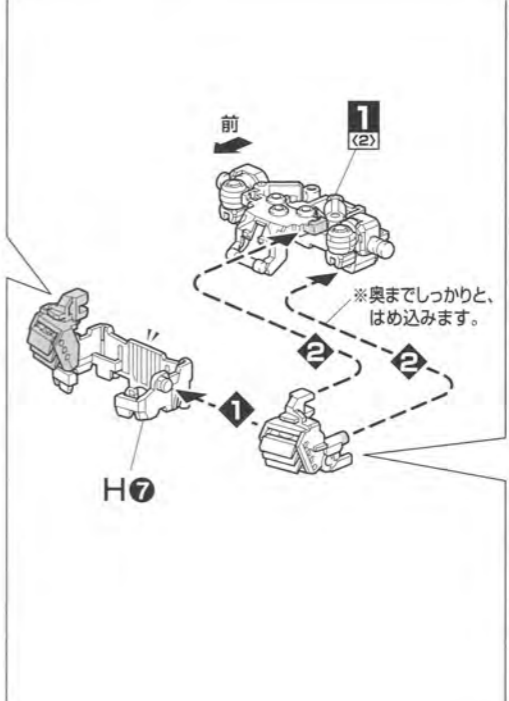
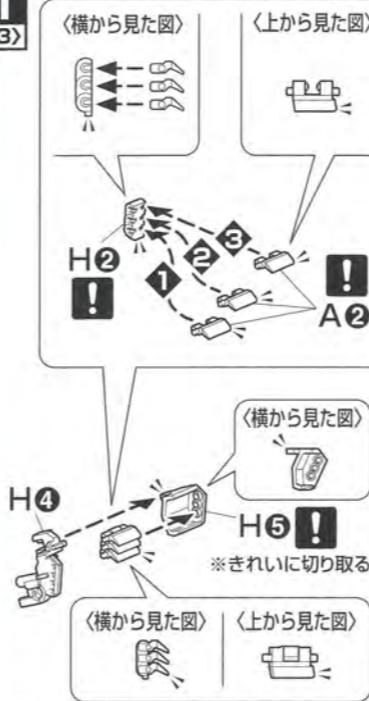
### 1 (胸部の組立) <1> BODY UNIT



### 1 (2)



### 1 (3)

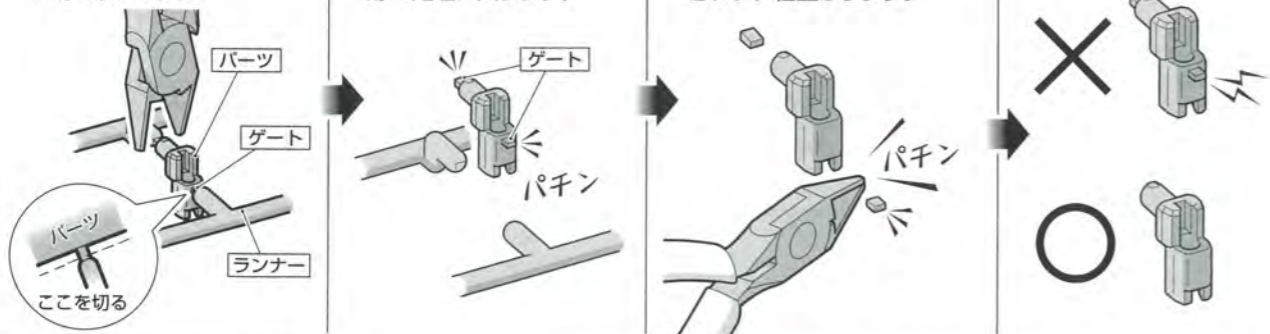


## パーツの切り取りかた

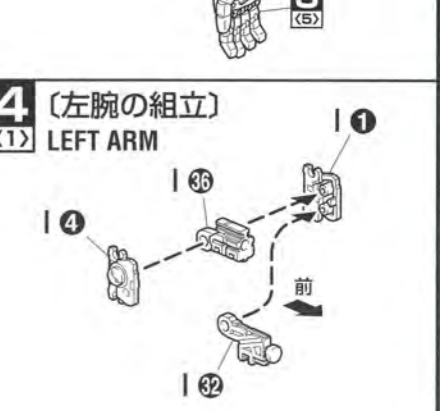
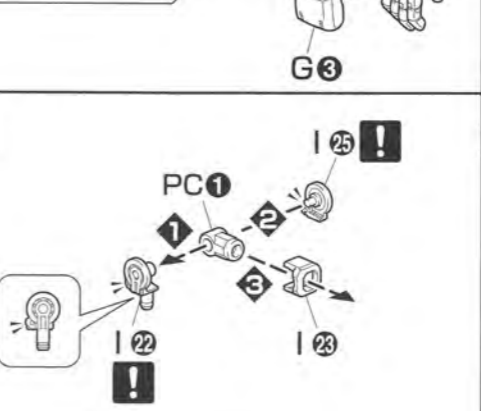
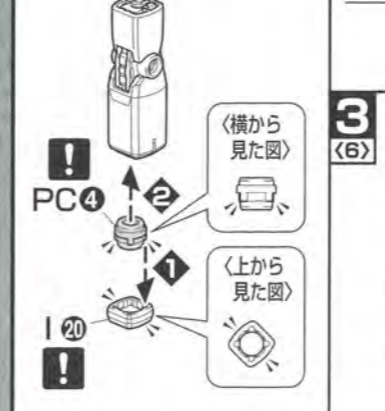
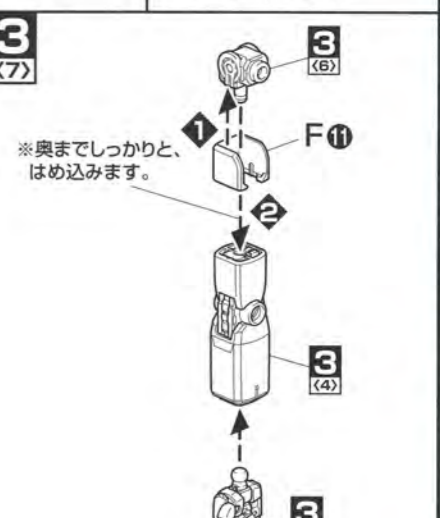
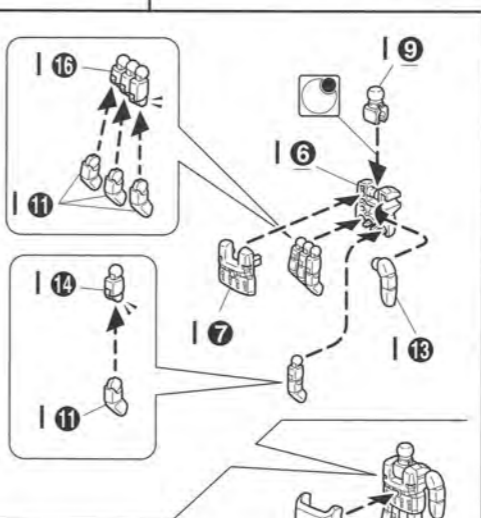
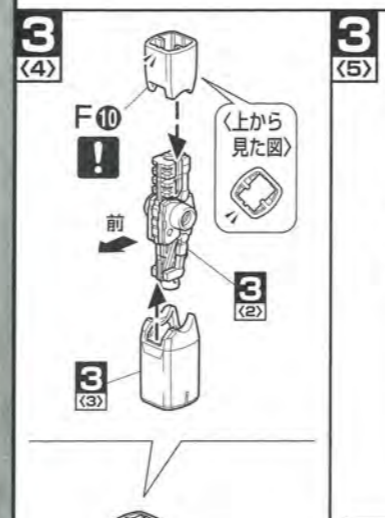
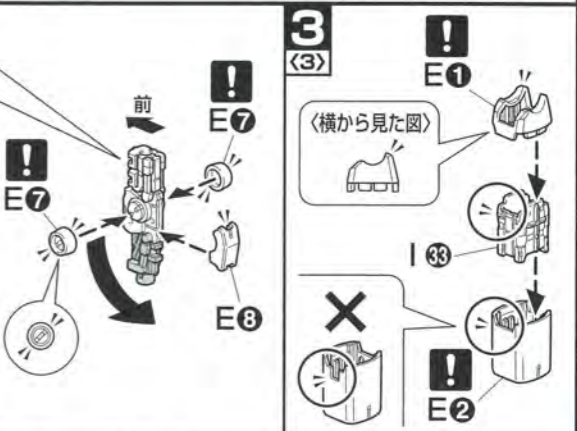
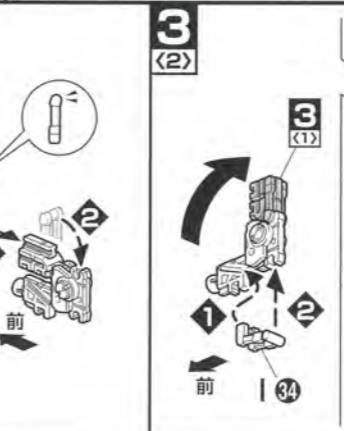
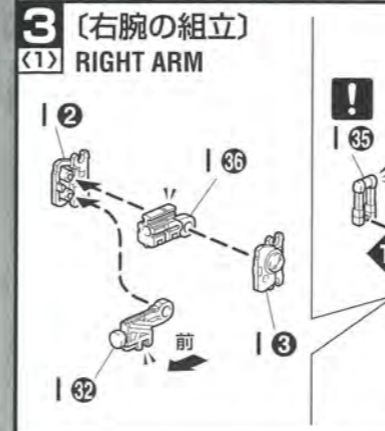
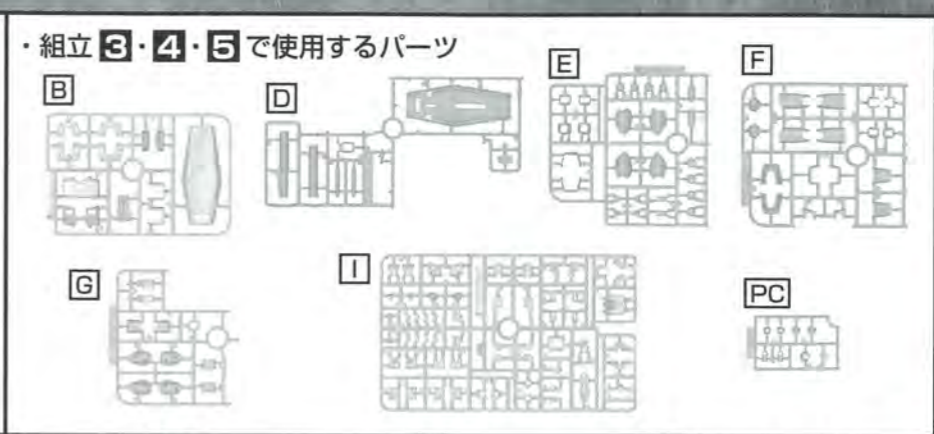
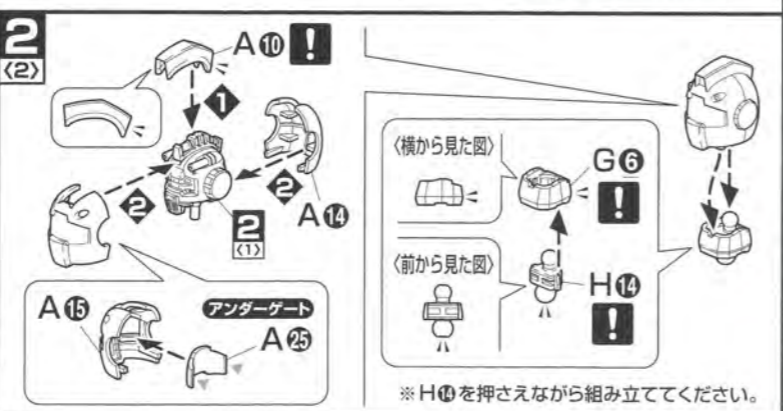
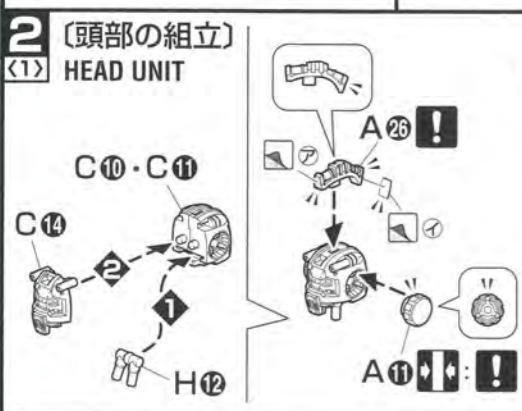
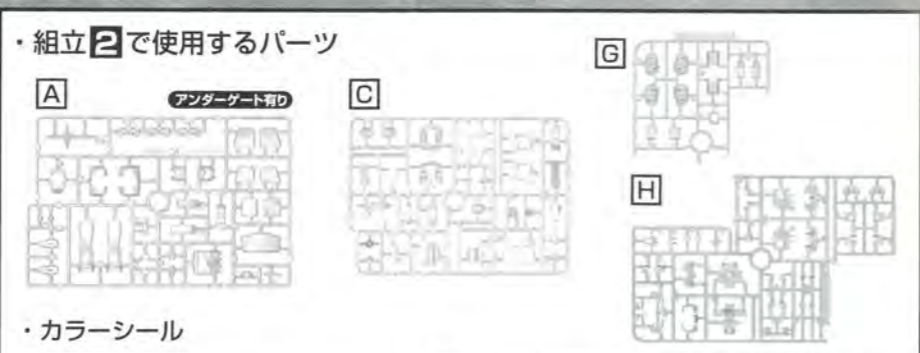
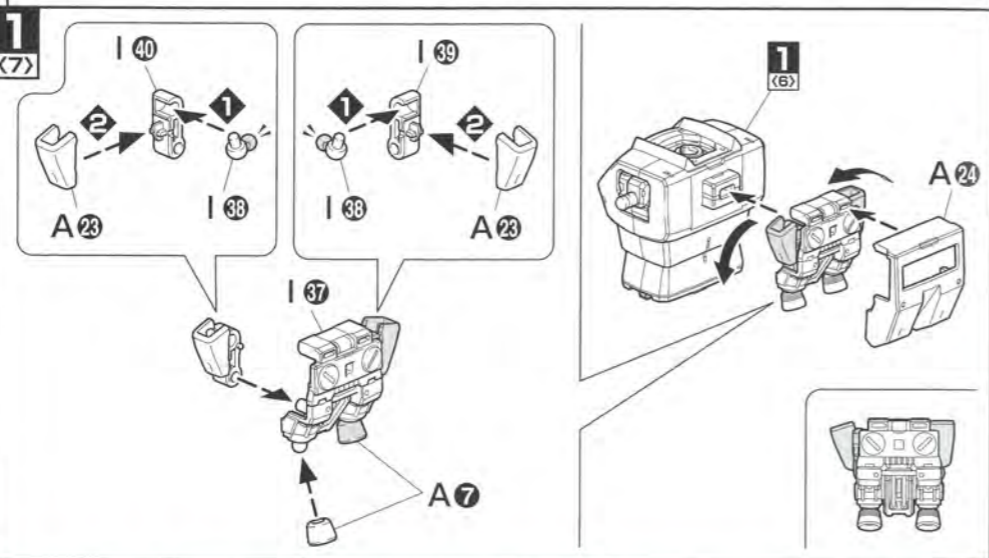
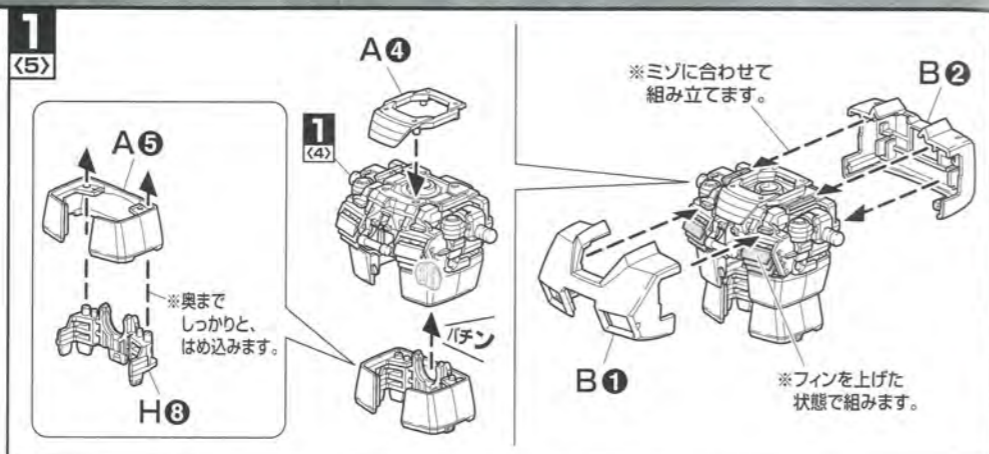
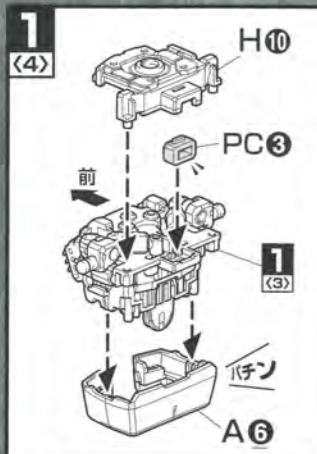
①まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。

②パーツを切り離して持ちやすくしたところでゲート跡の処理に入ります。

③ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。



※組立図中の記号説明 ! 向きに注意して組み立てる



# MS Tracks in U.C.0079 (一年戦争の軌跡)



### 光る宇宙

U.C.0079年12月29日。連邦軍の宇宙艦隊を指揮するレビル将軍は、アバオアケ、公国本土への進攻を目的とする「星一号作戦」を発令する。連邦軍第一連合艦隊はコンペイトウを出港。翌30日、ホワイトベースと合流した連邦軍第十三独立艦隊は、ジオン公国突撃機動軍のキシリア艦隊と交戦する。「我がグワジンはこの固定。シャア大佐発進30秒後に援護射撃を30秒かける!!」キシリアの命令一、艦隊戦の火蓋が切って落とされた。激しい砲火を交わす第十三独立艦隊の横合いから、シャアのザンジバルを先頭に3隻のムサイが特攻を掛ける。側面からメガ粒子砲に大穴を穿たれるサラミス。別の艦がお返しとばかりにそのムサイのエンジンネルを貫く。「双方2隻つつ撃沈!!」「次はMS戦だ。対空砲火用意!!」「MS、5、6機、編隊で来ます。総数不明です!!」オペレーターのオスカ、マーカークの報告にプライトが指示を出す。発進した無数のリックドムとジムが艦隊間の宙域で切り結ぶ。ボールの無反動キャンとジムのビーム・スプレーガンをかいくぐり、リックドムがジャイアント・バスを撃ちつつ艦隊に迫る。砲弾を撃ち尽くしたのか、リックドムがジャイアント・バスの砲身でジムを殴りつけ、ビーム・スプレーガンを打ち払う。と、ジムはランドセルからビーム・サーベルを抜き放ち、リックドムを腹腹からふたつに斬り払う。幾つもの光芒が虚空中に煌いては消えていった……。

※写真はイメージです。

### ジャブロー攻略戦

U.C.0079年11月30日。ジオン公国軍は大規模なジャブロー降下作戦を展開。シャアを指揮官とする特務部隊の報告によって場所が判明したジャブロー基地目撃、混成MSの大部隊を積載したガウ攻撃空母の大部隊が襲来する。ジャブロー上空から空爆を展開しつつ、MS部隊を降下させるガウの編隊。ジャングルのあちこちで火の手が上がり、緊急カタバルトからフライマンタがドップの迎撃に飛び立つ。「お、降りられるのかよ!!」ガウから降り出したザクのパイロットは、眼前を覆い尽くす対空砲火の火線に愕然とする。空中でビームに貫かれるドム、ザク。地上へ降り立つやバズーカを放つグフ。「28機のMSが降下したようです」「かなりの大部隊だな」とは言っても、ジャブロー全部を攻撃するには少なすぎる。しかし、キャリフォルニアベースの総力を結集した一大反攻作戦はジャブローの一部を襲撃したに過ぎなかった。ところが、その一部である宇宙船用のAブロックには、気密作業を終えたばかりのホワイトベースが係留されていた。アマゾン河を遡上した水陸両用MSがホワイトベースに迫る。「ジオンの侵入を許したのか?」地下の巨大な空間に押し寄せる公国軍を迎撃すべく、ガンダムを始めとするホワイトベースのMS各機と量産型MSジムが出撃する。「赤い色のMS? シャアじゃないのか?」アムロの眼前で瞬く間に戦車を屠った赤いズゴックは、次の瞬間には増援に駆けつけたジムの前に立ちはだかた!!



## RGM-79 GM MECHANISM

RGM-79はもともと汎用性を考慮に入れ開発設計された量産機である。RX-78の基本設計を受け継ぎながらも大幅なコストダウンを可能にし、驚異的な生産性をも誇るMSである。



▲ビーム・サーベルは指揮官機用に2本差しも可能な設計がされている。メインスラストは設計上はRX-78と同等のスペックが与えられている。



▲胸部ユニットはRX-78と同等のものが使用され、ビーム兵器の携行が可能である。

MODEL NUMBER : RGM-79 GM  
Height : 18.0m  
Weight : 41.2t  
Generator output : 1,250kw  
Armor materials : titanium alloy



▲内部フレームイメージ  
※組立戻り時に組立てた場合には、この写真のようになります。

▶頭部に使用されている光学端末はRX-78で採用されているデュアル・タイプを簡素化したもので、生産性の向上につながった。



▲RX-78で採用されたコア・ブロック・システムはコスト面から排除された代わりに、カセット式のコックピットが採用されている。これは基本設計がRX-78を参考にされているためである。



▲脚部、足部はあらゆる状況下でも対応可能な設計がされ接地性につながっている。

## PAINTING (塗装)

※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

### RGM-79 ジム Ver.2.0 指定色

腕、脚などの塗装色  
ホワイト(80%) + スカイブルー(15%)  
+ デイトナグリーン(5%)

胸部、つま先などの塗装色  
レッド(60%) + オレンジ(30%)  
+ ブラウン(10%)

胸部インテークなどの塗装色  
イエロー(60%) + ホワイト(20%)  
+ オレンジイエロー(20%)

シールド、武器などの白部の塗装色  
ホワイト(95%)  
+ ニュートラルグレー(5%)

コックピットハッチ、武器などのグレー部の塗装色  
ニュートラルグレー(70%) + ブラック(20%)  
+ インディブルー(10%)

顔センサーなどの塗装色  
クリアー(50%) + クリアーグリーン(30%)  
+ クリアーイエロー(20%)

※この商品は素材色を記載していますが、お好みで塗装する場合はこちらをご参照ください。

●ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はお勧めできません。  
※カラー配合は参考値であり、写真とカラーガイドの色は異なる場合があります。

### パイロット

ノーマル・スーツ

- ノーマル・スーツの塗装色  
イエロー(70%) + ホワイト(30%)
- ノーマル・スーツ ラインの塗装色  
すみれ色(60%) + ニュートラルグレー(40%)
- ノーマル・スーツ 襟などの塗装色  
ブラック(100%)
- ベルトなどの塗装色  
ホワイト(100%)
- パイザー部の塗装色  
エメラルドグリーン(50%) + スカイブルー(30%)  
+ ホワイト(20%)
- シートベルト部の塗装色  
グリーン(80%) + インディブルー(20%)



## ワンポイントステップ ~One point step~

スミ入れしてみよう!  
ガンダムマーカーク/スミ入れ用(別売り)などを使用して、キットのスジ彫りを塗装することで、立体感、リアル感が増します。スミ入れするだけで見違えるような仕上がりになります。



[before]



[after]

## Weapons

RGM-79 GM Armament



Hyper Bazooka  
Beam Saber  
Beam Spray Gun  
Vulcan Gun



▲頭部には60mmバズカンを2門装備。

▲シールドは、ランドセルにマウントが可能。

**4** (2)

前

**E7** **E8**

**4** (3)

〈横から見た図〉

〈上から見た図〉

**E1** **E2** **F10**

前

**4** (2)

**4** (4)

**PC4** **I 20**

前

**4** (2)

**4** (5)

前

**I 9** **I 17** **I 5** **I 10** **I 12** **I 8**

**4** (6)

前

**I 24** **PC1** **I 23** **I 21** **F11**

※奥までしっかりと、はめ込みます。

**4** (4)

**5** (1) **x2** (上半身の完成) UPPER BODY

**B4** **I 19** **I 18** **E3**

で作った右腕

**5** (2)

**2** **D3**

で作った頭部

※奥までしっかりと、はめ込みます。

**5** (1)

で作った胸部

**4** (1)

で作った左腕

**6** (7) **8** LEG UNIT

・組立 **6**・**7**・**8** で使用するパーツ

**A** **B** **E**

**F** **G** **J** **PC**

**6** (1) **x2** (脚部の組立) LEG UNIT

裏返します

**J19** **J24** **PC5** **J18** **J20** **B6** **J21** **J22** **J23** **J25** **B7** **J6** **J7** **J8**

**6** (2)

※**J20**～**J23**はピンを切り落とさないように注意してください。

**F3** **J20** **J21** **J22** **J23**

**6** (3) **x2**

※きれいに切り取ります。

**J25** **B7** **J6** **J7** **J8**

**6** (4) **x2**

**J2** **J6** **J7** **J8**

**6** (5) **x2**

後

**J1** **J17** **J18** **J19** **J20** **J21** **J22** **J23** **J24** **J25** **B6** **B7** **J6** **J7** **J8**

**6** (6) **x2**

後

**E11** **E3** **E10** **E9** **F2**

**7 [右足の組立]**  
**(1) RIGHT LEG**

**7 (2)**

※J9はピンを切り落とさないように注意してください。

**7 (3)**

**7 (4)**

**7 (5)**

**7 (6)**

**8 (4)**

**8 (5)**

**9 10 WAIST UNIT**

・組立 9・10・11 で使用するパーツ

A C H I PC

**8 [左脚の組立]**  
**(1) LEFT LEG**

**8 (2)**

※J9はピンを切り落とさないように注意してください。

**8 (3)**

**9 [腰部の組立]**  
**(1) WAIST UNIT**

**9 (2)**

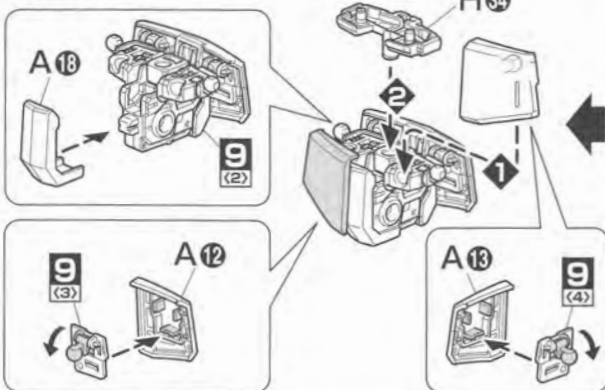
**9 (3)**

**9 (4)**

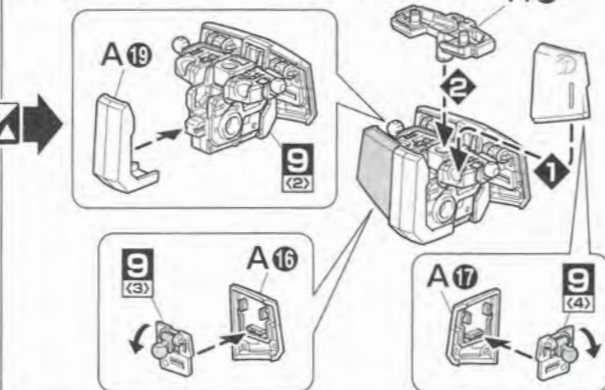


9  
(5)

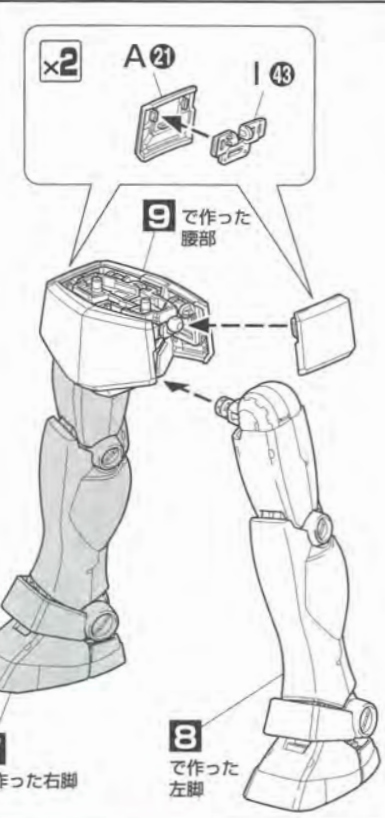
〈フロントアーマー：ノーマルタイプ〉 H34



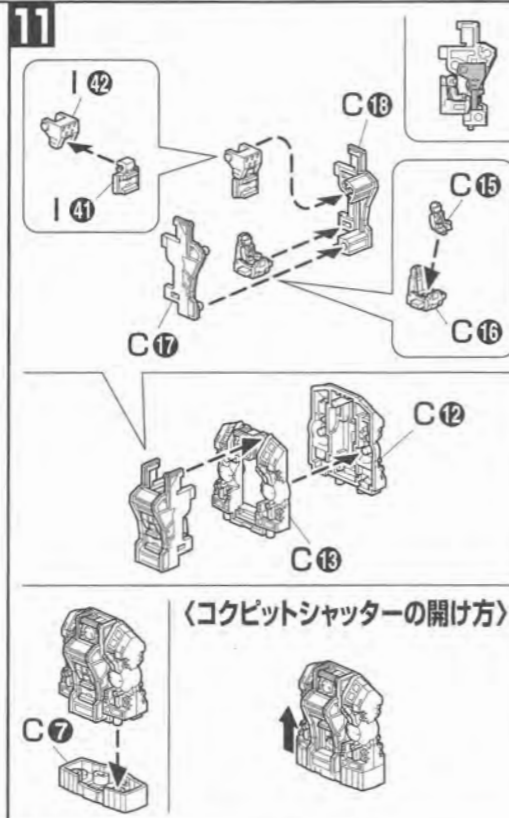
〈フロントアーマー：セパレートタイプ〉 H34



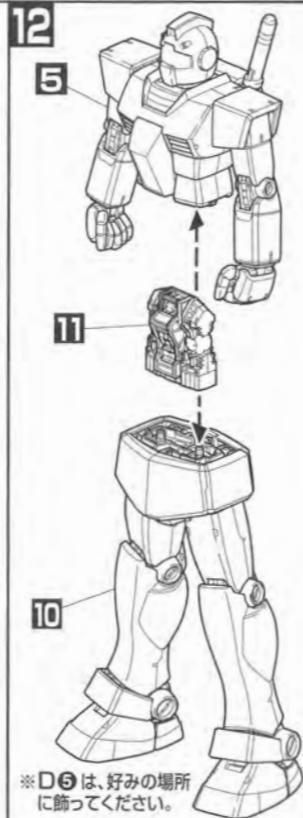
10



11

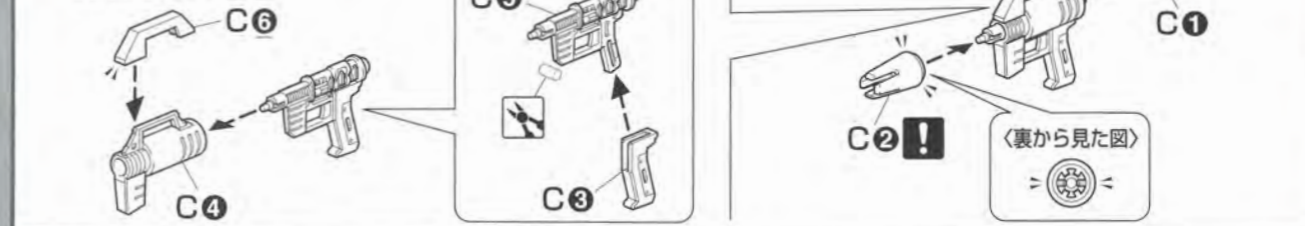


12



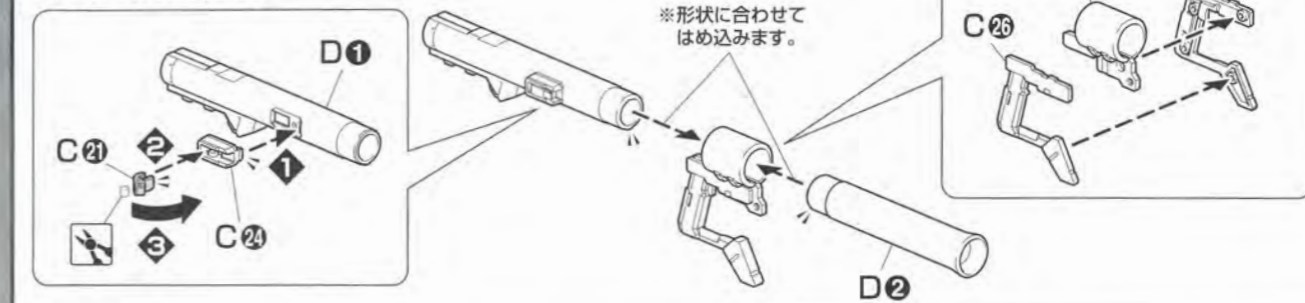
13 (ビーム・スプレーガンの組立)

BEAM SPRAY GUN



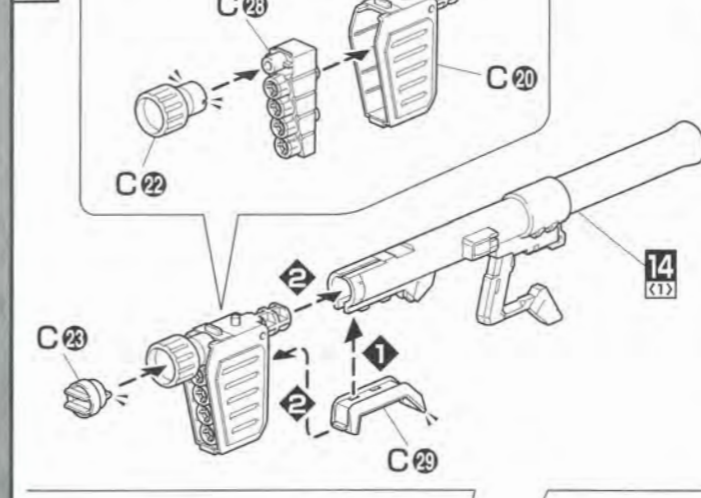
14 (ハイパー・バズーカの組立)

HYPER BAZOOKA



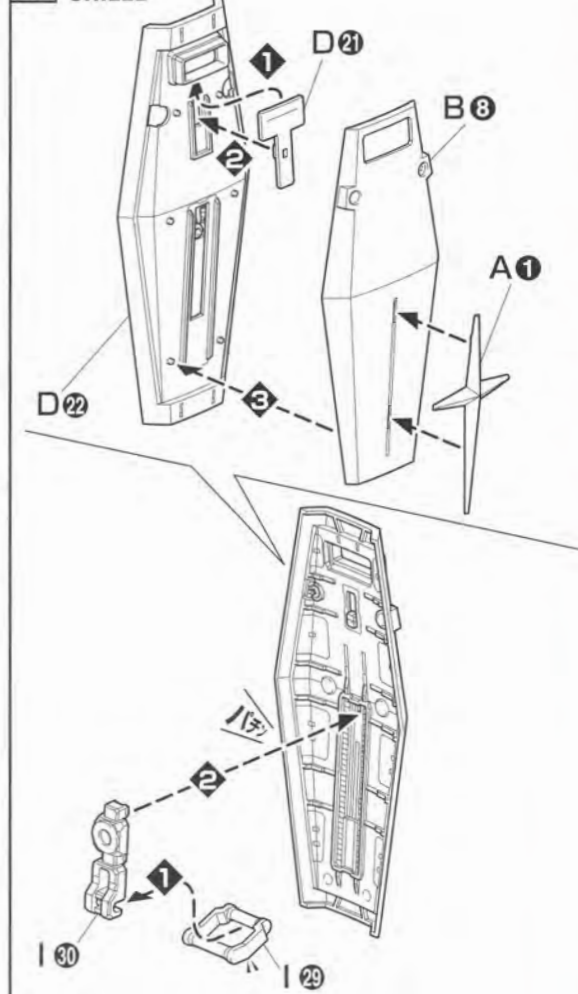
14

(2)



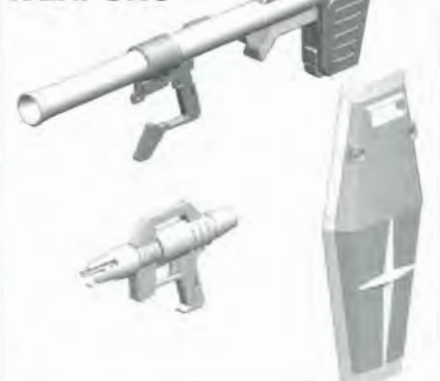
15 (シールドの組立)

SHIELD



13 14 15 16

WEAPONS



・組立 13・14・15・16 で使用するパーツ



16

※組立図中の記号説明

どちらかを選んで取りつける

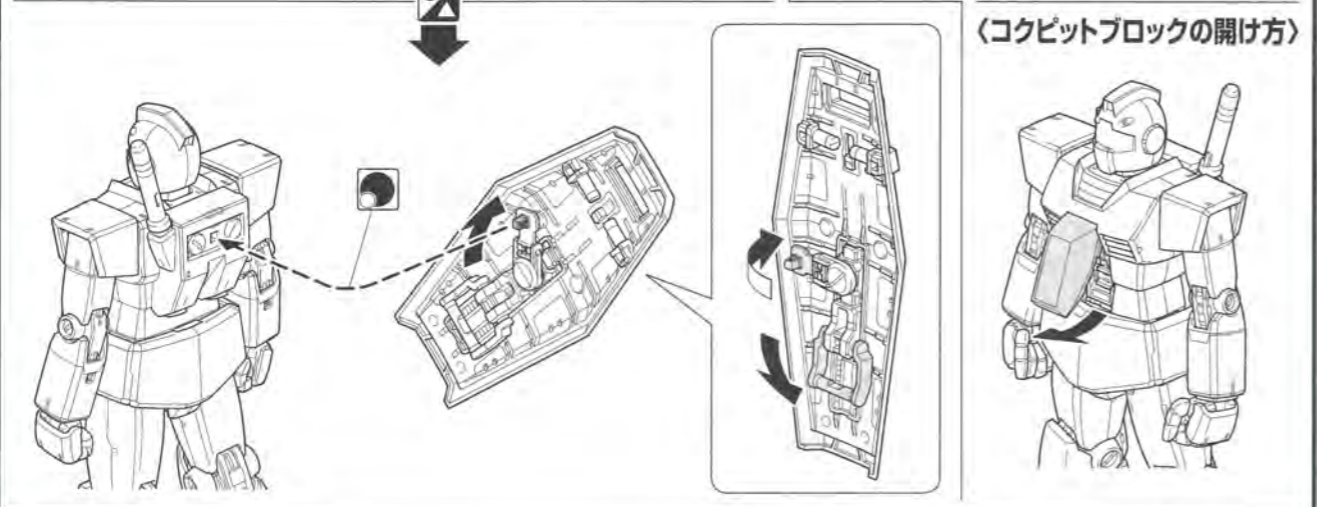
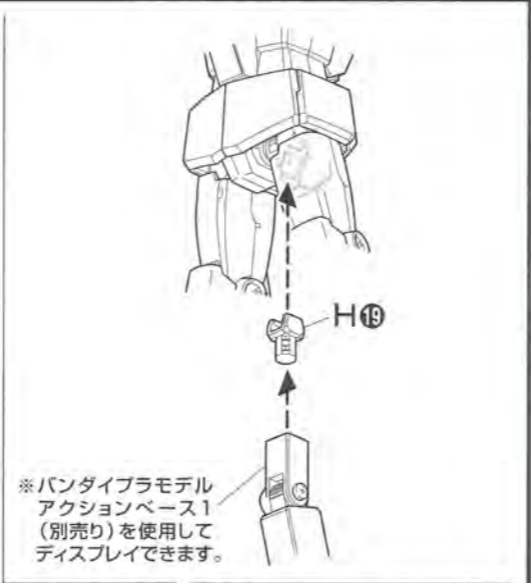
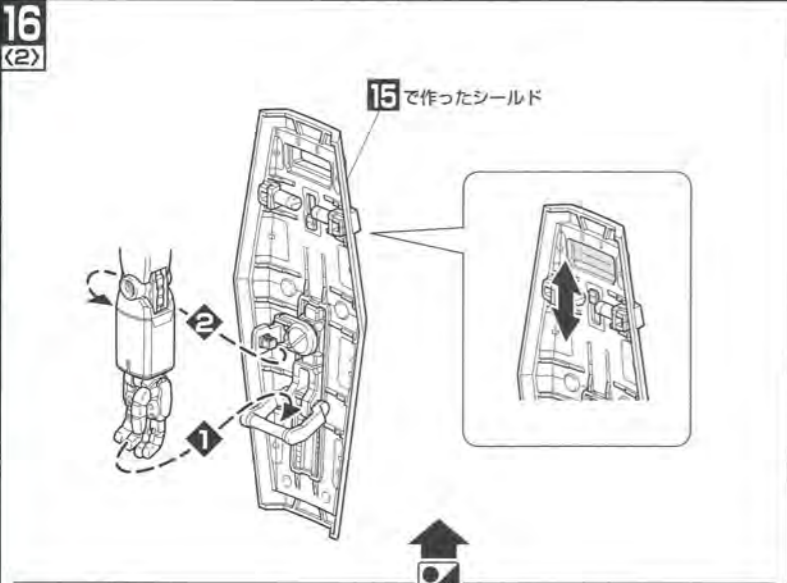
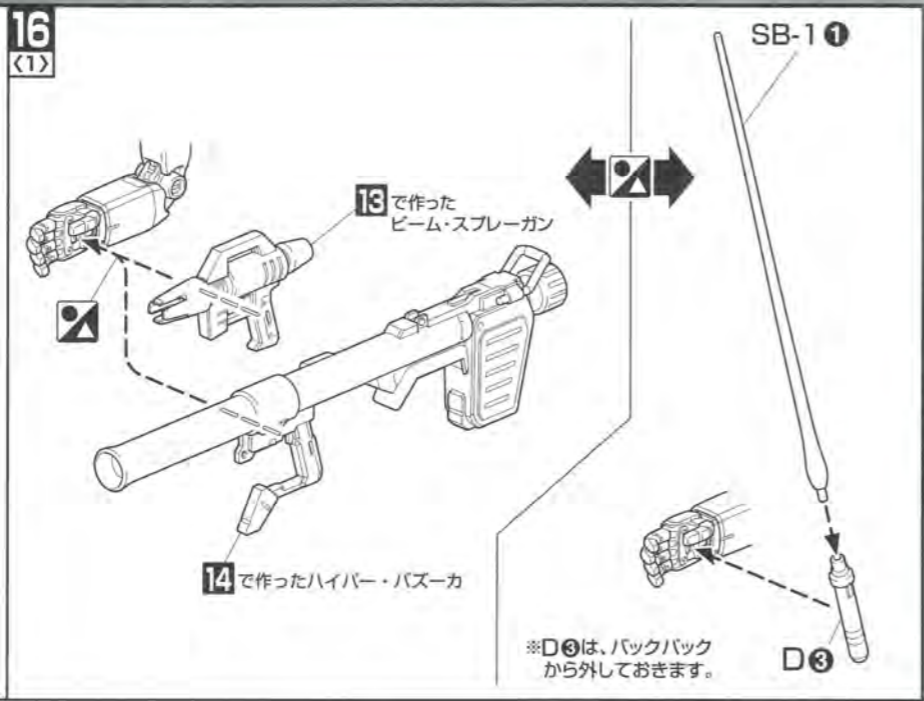
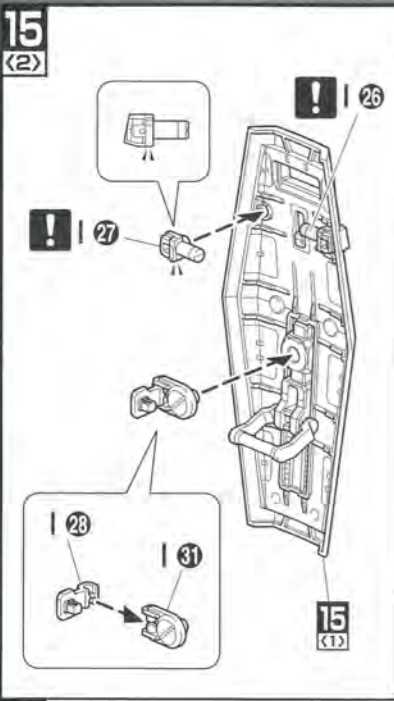
×2 部品を数値の個数作ります

※組立図中の記号説明

切り取る部分

向きに注意して組み立てる

17

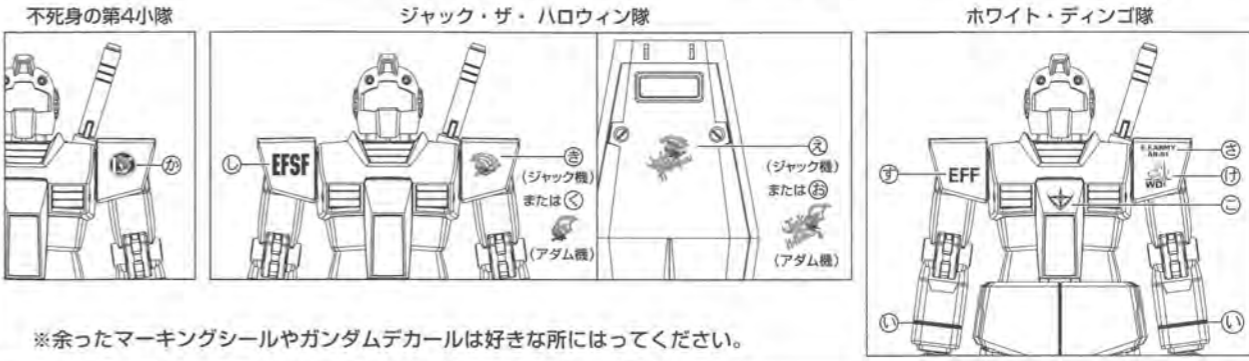
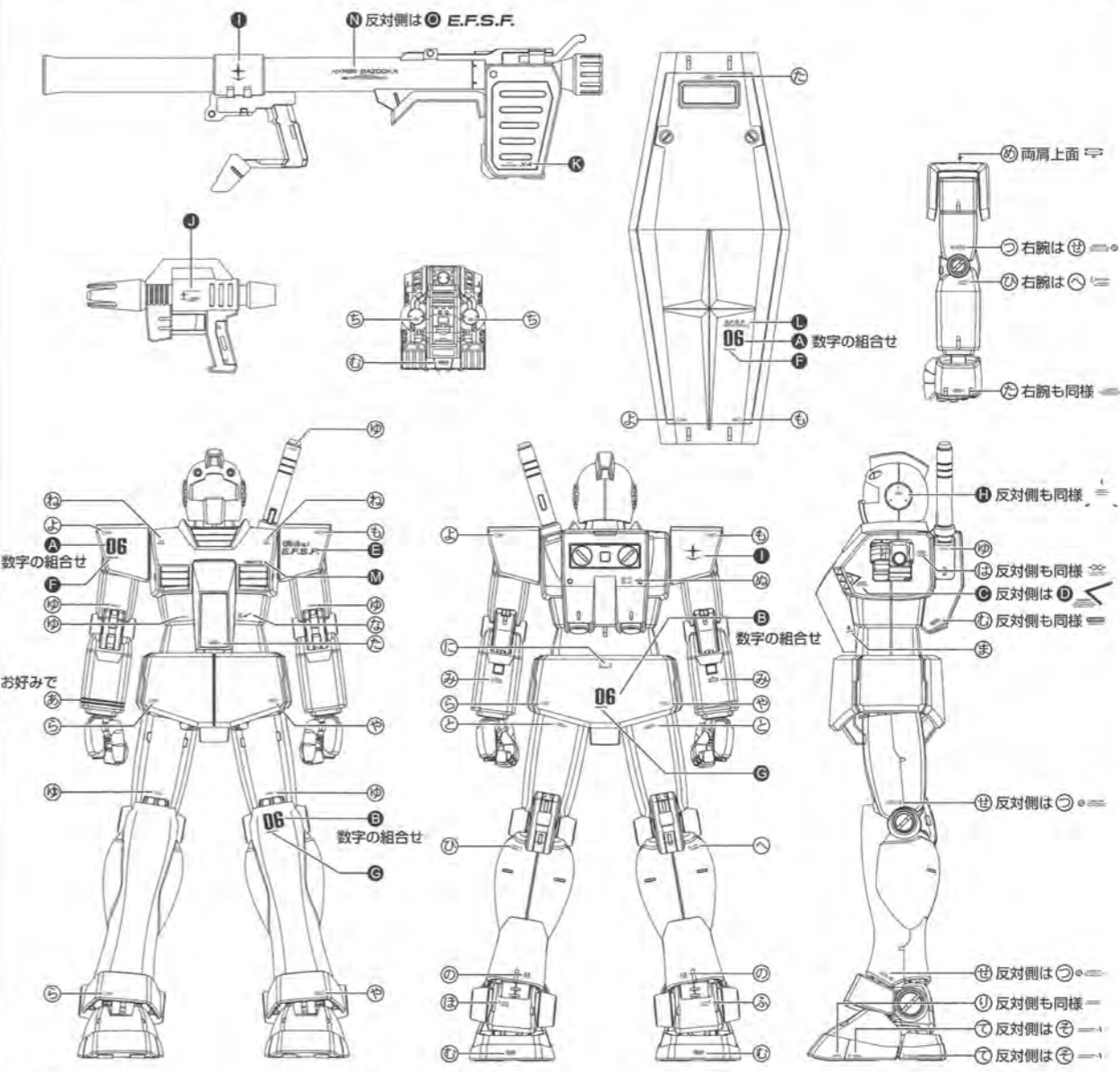


**Seal**

「シール」 下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。  
 マーキングシールは「ひらがなの黒文字」、ガンダムデカールは「アルファベットの白文字」で表記してあります。  
 【例】 Ⓐ・・・マーキングシール Ⓐ・・・ガンダムデカール

**【ガンダムデカールの貼りかた】**

1. 転写するマークを大きめに切ります。  
 2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。  
 3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすりつけます。  
 このマーキングシール及びガンダムデカールはプラモデルオリジナルのもので、貼り指示は一例ですのでイメージに合わせてお貼りください。



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。